

やる(努力する)こと

1. 教育を考える一言

私が心に残っている言葉は、「やればできる？だったらやれよ」です。この言葉は、高校時代の3年間、私の担任であった教師の言葉です。

2. 背景

高校時代、受験戦争のさなかであった私は、模擬試験の結果が出ない度に「自分は、やればできる」という心情を抱いていました。このような心情を吐露したとき、決まって担任は、「やればできるなら、やれよ」「やれない言い訳はないだろう」という言葉を強く私たちに言い続けました。

みなさんも同じような感情を抱いたことはないでしょうか。自らの努力不足が結果となって露呈するのを恐れ、望ましい結果が出ないときの言い訳として、心の奥底に“最終手段”として残しているに違いありません。悔しいですが、非常に的を射た言葉であると感じます。

彼のこの言葉の出所を、私は知りません。それは、彼の人生経験から生み出された言葉かもしれません。しかし、この機会に、彼の言葉は誰から影響を受けて生まれたものなのかという問いを探ってみようと思います。私が目をつけたのは、彼の大好きなルイ・ナポレオン・ボナルトです。ナポレオンの残した言葉の中で2つに注目し、考察をします。

- ・「時間は飛ぶように過ぎ去るから、一瞬を無駄にすれば何もかも、手に入れたものすら失いかねないのだ。」(1813年2月13日、モレ国務院議員に語る)
- ・「野心こそ人間の主要な原動力である。」(シャプタル内務大臣に語る)

3. 考察

1 つめの言葉は、時間の大切さに関して述べたものであります。高校生活という時間は有限であり、過ぎた時間を取り戻すことは不可能です。それと同時に後悔を0にすることも不可能です。努力に費やす時間を大切にし、終わった後の後悔をなるべく減らすことが大切であることをこの言葉から読み取ることができるのではないのでしょうか。2 つめの言葉は、努力することの原動力について述べています。それは野心（目標）です。この目標を、高校時代の私の場合で考えると、「大学入試の合格」です。的確な目標を据え、この目標に向かってひたむきに努力することが大切なのだと考えられます。努力する過程で、「自らの設定した目標と、取った行動が見合っているかどうか」「目標に妥当性があるかどうか」という点に着眼して振り返ることで、次回への行動に影響を与え、質の向上につながるのではないのでしょうか。また、自らの努力を否定的に捉えるに留まることはなくなると考えられるでしょう。

- ・「不可能という言葉は私の辞書にはない。」(ナポレオンの口ぐせ)

参考文献

フェリックス・コクロー『ナポレオン発掘記』法政大学出版局、1982年
長塚隆二『不可能を可能にする ナポレオン語録』日本教文社、1991年